



塩山市民病院で健診を受ける妊婦(30日)

塩山市民病院

妊婦の情報ネット共有

健診結果、出産病院へ

甲州市の塩山市民病院で2011年5月から試験運用されている妊婦健診などの産科外来が順調だ。同病院では実際の出産はできないが、山梨大医学部が医師を派遣し、健診を実施。妊婦の負担軽減と安全な出産が目的で、30日からは同病院と、出産対応の同大医学部附属病院(中央市)と市立甲府病院(甲府市)との間で健診結果をインターネットで共有するシステムの運用も始まった。

これは、「産科セミオーブンスシステム」。県内で出産ができるのは7病院、8診療所、1助産所で、産科外来対応の医療機関も、この16か所以外に5、6か所しかない。大半が甲府市と富士吉田市の周辺に集中している。多くの妊婦が健診の度に遠出を強いられ、そのため、改善策を探ろうと、塩山市民病院で始まったのが同システムだ。

同大医学部の産婦人科・平田修司医師によると、妊婦は出産までに15回ほどの妊婦健診を受けることが望ましい。病院が胎児と妊婦の健康状態を健診で把握で

きていないと、帝王切開の可否や麻酔を打つ箇所の決定など、出産時の重要な判断が迅速にできないためだ。しかし、最近では健診を受けずに出産に臨む妊婦が増えているほか、健診を受けたのと別の病院で出産するケースもある。「安全に出産を終えるには、病院が健診情報を得ることが重要」と、平田医師は健診の重要性を訴える。

同システムでは、塩山市民病院が産科の非常勤医を同大から受け入れ、産科外来を行い、出産に対応する同大医学部附属病院と市立甲府病院と診療情報を共有している。これまでは情報のやり取りは主にファックスだったが、誤送信による個人情報流出や患者情報の取り違えのリスクを考慮し、30日からはインターネットで、妊婦の健康状態や

胎児の状況などの情報を共有することにしたという。

これまで約20人が塩山市民病院の産科外来を利用。30日に受診した甲州市塩山下於曾の古明地汐里さん(26)は、「つわりで苦しい時期やおなかの大きい時に家の近くで健診を受けられ

るのはとても助かる」と話す。

平田医師は、「理想は県内各地にお産に対応できる医療機関が存在することだが、現状では難しい。セミオーブンスシステムで少しでも妊婦の負担を軽くしていけたら」としている。